

# 生活指導だより

2022.9.30

岸和田市立八木南小学校

校長 山下 善久

生活指導委員会

学校教育目標

かしくやさしくたくましく

## いよいよだんじり祭が始まります!!

先日の9月17日、18日に岸和田旧市内、春木地区のだんじり祭が終わり、八木地区でもいよいよだんじり祭が始まります。10月2日(日)には試験曳き、そして8日、9日には本番を迎えます。だんじり祭は、子どもから年配の方まで、多くの方が一体感をもって参加できる地域の祭です。ではその祭りはいつ、どうして始まって、現在はどうなっているのでしょうか。

岸和田だんじり祭は、約300年の歴史と伝統があり、元禄16年(1703年【5代将軍・徳川綱吉の時代です☆彡】前年には有名な赤穂事件があった時代です。)、その時の岸和田藩藩主「岡部長泰」公が京都伏見稲荷を城内三の丸に勧請(=神様の分身を自分の地域の神社にご招待すること)し、米や麦、豆、あわやひえなどの5つの穀物がたくさん取れるように(五穀豊穰)祈願し、おこなった「稲荷祭り」がその始まりと伝えられています。そこから、人々がそのお祭りを盛り上げるために、いろいろな芸や、相撲などを披露したり、太鼓を乗せた台車を引っぱったりして町を練り歩いたりして楽しんでいました。そんなお祭りが続いていく中、1785年に泉大津より古いだんじりを購入し、それを見た大工たちが各町で現在につながる岸和田型の「だんじり」を作り始めたそうです。改良を重ねて、より大きく、より豪華になっていきました。



岡部長泰公



↑ 行基参りの様子

八木地区にも1850年ごろ「だんじり」が広まってきました。ある資料によると「1877年4台のだんじりが久米田寺に曳き入れられる」との記載があり、その時代から八木地区でもだんじり祭が盛んになってきたと考えられます。1986年には「行基参り」に13町のだんじりが集まるようになり、現在に至っています。

昔は、穀物がたくさん取れるように祈願したり、秋の収穫に感謝を伝えたりするお祭りでしたが、今は社会の様子も変わってきました。みんなが「だんじり」を中心

に集まり、楽しく、祭をすることで、地域のつながりを大切にしていこうとしています。そして、たくさんの人に活気を与える祭になってきています。

また、だんじり祭は、各年齢層で、役割分担を決め、町ごとに組織、運営されています。このようにつながりも現在ではとても貴重なものだと思います。だんじり祭は、各町会が主催する祭礼であり、統括的な運営は毎年各町から推薦された祭礼年番が行っています。まさに、「人」のエネルギーがだんじり祭を支えているのです。



### だんじり祭参加・見学時の注意（再）

- ・少しでも体調がすぐれないとき、風邪症状があるときは、参加、外出しない。
- ・手指消毒、手洗いを励行する。
- ・人が密集する場所、換気の悪い場所を避け、人との距離を取る。
- ・息苦しい場合を除いて、マスクをつける。
- ・ペットボトルの回し飲みなど、他の人と飲食物を共有しない。
- ・食事の場面は感染拡大のリスクが高いため、十分に注意する。
- ・水分や塩分を取るなど、熱中症にならないよう気を付ける。



**運動会の練習が本格的にスタートしています。**

**子どもたちの健康管理を引き続きお願いします。**

2学期がスタートし、1ヶ月が経ちました。運動会の練習にも熱が入ってきています。子どもたちは、日々、それぞれの目標に向かってがんばっています。その努力をサポートできるように、しっかりと見守っていきたいと思います。ご家庭でも、子どもたちの体操服や水筒の準備などとともに、学校での「がんばり」「努力」「達成感」をぜひ直接聞いてあげてください。次の日のやる気につながっていきます。よろしくお願いします。

また、生活リズムを整え、朝ご飯をしっかりと食べて学校に出発できるようサポートよろしくお願いします。運動会練習、地域の祭と普段通りの生活リズムではない日々が続きます。「夜更かしをして朝起きれない→時間がないので朝ご飯を食べない→運動会の練習でしんどくなる」こんな負のサイクルに陥らないよう、規則正しい生活を心がけてください。